

## 【数字を読み解く】 マイナス 11.1%

～8月 乗用車新車登録台数の前年比伸び率 半導体不足などによる減産響く～  
<2021/10/1 大分合同新聞掲載>

数字は、8月の大分県における乗用車新車登録台数の前年比伸び率だ。

本統計は、自動車の新車登録台数を月次で公表しているもので、乗用車のうち、普通・小型車は日本自動車販売協会連合会が、軽自動車は全国軽自動車協会連合会がそれぞれ公表している。なお、購入した自動車が新車登録された時点で統計に計上されるため、自動車ディーラーなど販売店サイドの受注・販売動向とは必ずしも一致しない（受注から納車＝新車登録までには、相応のタイムラグがある）点には留意が必要である。

大分県における乗用車新車登録台数の推移をみると、全国に緊急事態宣言が発出された影響が強くみられた2020年5月（前年比マイナス49.4%）をボトムに持ち直し、同年10月から21年5月までは前年を上回って推移してきた。ただ、6月以降は、前年を下回っており、直近8月は前年比マイナス11.1%となった。

これは、世界的な半導体不足や、海外での新型感染症拡大に伴う部品の調達難から、自動車メーカーが減産を余儀なくされ、納車に遅れが生じていることが要因だ。現時点では、新型車の投入効果などから自動車ディーラーでの受注は堅調だが、「正確な納車時期を顧客に伝えられないことで、購入を見合わせる動きが一部にみられる」との声も聞かれている。

自動車産業は裾野が広く、経済への影響が大きいことから、今後も半導体不足および部品の調達難が自動車の生産・販売動向に及ぼす影響について、注意深く見ていきたい。（日本銀行大分支店）